

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102518
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ荒田
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目1番27号 (電話) 099-812-3866
自己評価作成日	平成22年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置し、バス、電車等の交通機関も充実しており、利便性が高く訪問しやすい。電車通りに面しており、入居者の方も内に居ながらにして電車の通る音や外の賑わいが心地よく響き落ち着いた空間となっている。

下肢筋力を維持し、自由に動き回って楽しい日常生活が送れるように天気の良い日は毎日、近くの荒田八幡宮まで散歩を継続しています。また、朝はラジオ体操を行って手足を動かし、夕方は下肢筋力運動を行って筋力低下防止を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・市街地の電車通りに位置する利便性のよいホームである。
- ・利用者の飼っているペットが、家族の一員になっている。また、来客時にお茶を運んでくださる利用者がいたり、笑顔あふれる家庭的な雰囲気のあるホームである。
- ・理念をもとに、口腔ケアや下肢筋力維持のため、ラジオ体操の実施、戸外にできるだけ出かける等、利用者と家族の絆を地域の中で支える取り組みをしている。
- ・同一法人に医療機関があり、保健医療面や緊急時の対応等についても連携が確保されて支援体制ができています。
- ・職員間のコミュニケーションがよくとれている。内外の研修会に交代で参加しており、資格取得にも意欲的である。研鑽を活かして、サービスの質向上に努めている。

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

.. 理念に基づく運営

1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を事業所全体で確認し、従来の理念を基に地域生活の継続、支援を強化する理念を謳いケアの中で理念が反映できるように取り組んでいる。	理念を玄関や各階に掲示している。管理者・職員は、朝礼時に唱和して確認し合い、日々のケアに取り組んでいる。	
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域住民と同じように班長もこなしている。地域の文化祭、お祭り、運動会にも参加して地域住民との交流を深めている。	町内会に加入し役員を引き受けている。地域の掃除や運動会・文化祭等の行事に参加したり、利用者の友人や地域の住民も来訪したり、歌や踊りのボランティア訪問を受けるなど、地域住民と日常的な交流を図っている。	
	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の高齢者に役立つ事がないか、事業所で実践したことや知識を地域の人に伝える事が出来るよう、地域住民の代表者と話し合う場を設けている。		
3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、ご家族、地域住民、地域包括支援センターの方々の参加を呼びかけ実施している。会議では事業所の報告を行い質問、意見、要望を聞き、意見を取り入れてサービスにつなげている。	運営推進会議で、事業所の状況報告や災害時の対応について話し合いを行い、地域包括支援センター職員や地域の代表者等からも情報や意見を聞くなどして、サービスの向上につなげている。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町担当者とは毎月連絡を取り合い、利用者の課題解決や相談にのって頂いたりしている。担当者交代時は事業所を訪問して頂いたり窓口にて挨拶をかわし協力関係を継続している。	市の窓口にも毎月出かけて行き、課題解決や相談をしたりして担当者と連携を取りながら協力関係を築いている。地域包括支援センター職員も運営推進会議に毎回出席し、アドバイスももらって共に取り組んでいる。	
5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については毎月ミーティングを開いて話し合っている。スタッフが疑似体験をしてその中から肉体的、精神的な問題点を明らかにして身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束について、委員会を設置し、また毎月のミーティングで話し合いを行っている。疑似体験を職員が行い、ケアに活かしている。言葉かけの工夫も配慮している。	
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について毎月ミーティングを開いて話し合い、高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。虐待を発見した場合のマニュアルも作成し、虐待防止に努めている。		
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は本人やご家族に情報を与え、必要な人には活用できるように支援している。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項の説明を丁寧に行っている。利用者やご家族からの要望、疑問については十分に説明を行い、理解や納得が得られるようにしている。解約時は今後の生活への情報提供も行っている。		
6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員を年に1～2回派遣してもらい利用者の相談にのって頂いている。スタッフも個別に利用者の不満、要望を聞き運営やケアに生かしている。玄関入口に意見箱を設置して意見を聞けるようにしている。	家族の面会時や会話の中から、意見や要望を聞き、運営や日々のケアに反映している。意見箱を玄関に設置している。家族会や運営推進会議の場でも意見等を聞いている。介護相談員に利用者の相談支援をしている。	
7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ミーティングを行いスタッフの意見を聴くようにしている。家族会、運営推進会議で出された意見は管理者を中心に職員で話し合い反映させるようにしている。	毎月のミーティングで、職員の意見や提案を聞きながら、運営に反映させている。参加できなかった職員には、報告をしている。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	健康診断を年に2回実施し、職員の健康維持が出来るようにしている。代表者は、管理者や職員の勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外で開催される研修には多くの職員が参加するよう呼びかけ、各自の立場、経験に合ったものを受講出来るようにしている。研修報告はミーティングで発表して貰いスタッフ全員で情報を共有している。</p>		
	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業所の勉強会、研修会で交流を図ったり、同業者との交流会で情報、意見の交換をしてケアサービスの質の向上に努めている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

Ⅰ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談にて本人の生活状況を把握している。入居前は見学に来て頂いて一緒にお茶を飲んだり、会話ができる場を設けて本人の不安や要望が聞けるようにし、安心してサービス利用が出来るように努めている。		
○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望を把握し、事前に話し合い、安心して頂けるよう信頼関係を築く努力をしている。		
○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の実情や要望を理解し、ご家族の苦労や今までのサービス利用状況をゆっくり聞くようにし、出来る限りの対応に努めている。		
○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事や植物の世話など利用者に教えてもらう場面が多い。利用者の得意分野で力を発揮してもらえよう場面作りの工夫や声かけをしている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日々の暮らしの様子や状況をご家族に伝えるために毎月手紙を発行している。面会時は本人とご家族と一緒に過ごせるような対応に心がけ、本人を支えていくための協同関係を築いている。</p>		
8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔からの知人や友人に電話での連絡を取り持ったり、手紙等の交流を通じて関係を途切れないよう支援している。</p>	<p>友人が訪ねて来たり、電話や手紙で友好を温めたり、行きつけの美容室に家族と出かけたり、墓参りや自宅へ外出や外泊をするなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。</p>	
	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お茶やレクリエーション、家事の手伝い等利用者同士の関係が円滑となるよう職員が調整役となって支援している。</p>		
	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了した後もご家族の相談にのったり、他の情報を与えるなどの支援に努めている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

I. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が一人ひとりの思いや意向を把握しようと努め、利用者に応じた声かけやスキンシップを行っている。	日々のケアや会話を通して、声かけや表情などから思いを把握している。散歩や買い物・歌を歌うなど、希望や意向の把握に努めている。本人本位に支援している。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、入居前は自宅に訪問して本人やご家族、関係者などから生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用等の情報収集を行うように努めている。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮しつつ、一人ひとりの暮らしの流れに沿って、本人の状況を総合的に把握できるように努めている。		
10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすため、本人、ご家族、関係者と話し合った結果を基に現状に即した介護計画を作成している。変化に応じて臨機応変に介護計画を見直している。	モニタリングを毎月行っている。職員は利用者の担当を決めて、本人・家族・関係者と話し合いながら、現状及び変化に即した介護計画の作成や見直しを詳細に行っている。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿いながらケアの個別状況や、ケアをしながらの気づきや工夫を記入している。個別の情報はスタッフ間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、それぞれの抱えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて通院、送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、利用者のご家族が安心して暮らし続けるために必要な支援を行っている。		
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続ける事が出来るよう、町内会長、民生委員、消防署の方々と意見交換の場を設けている。また、ボランティアへの協力も呼びかけている。		
11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はこれまでのかかりつけ医を基本としつつ、変更する場合でも本人、ご家族の同意を得て決め、適切な医療が受けられるように支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援している。緊急時はホットラインを設けて対応している。受診ノートを作成して、医師との連携を図りながら、適切な医療が受けられるように支援している。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。看護職員がいない時は提携医療機関との連携が密にとれるよう体制を確立している。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている。医師と話をする機会を設けて本人の疾病の状況、身体状況を把握し、事業所内での対応可能な段階で早期に退院できるようアプローチしている。		
12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に応じ、ご家族、医師、看護師を交えて話し合い、本人やご家族の気持ちを大切に、事業所として対応が可能なこと、困難なことを説明している。急変時は早急に対応していただけるよう医療機関とも密に連絡を図っている。	重度化・終末期に向けた方針があり、利用開始時に同意書を取っている。管理者・職員は方針を共有し、状態変化時は家族・医師・看護師とその都度話し合い支援を行っている。かかりつけ医とのホットラインを設けて対応している。	
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署員からの心肺蘇生法の研修を受けたり、院内での勉強会にて応急手当が実施できるようにしている。利用者の急変時、事故発生時の対応マニュアルを作って対応している		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回利用者と共に避難訓練を行い避難通路の確認、消火器の使用方法、など訓練を行っている。地域との協力体制は呼びかけている。	年2回、避難訓練を行っている。避難通路の確認と消火器の使い方及び夜間想定訓練をしている。各居室に声かけをして確認する方法を取っている。備蓄は、各階に水・缶詰・懐中電灯等を準備している。地域の協力体制もできている。	

7. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折りに職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方を話し合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を心がけている。	一人ひとりの人格を尊重しながら、日々のケアに取り組んでいる。毎月の勉強会やミーティング時に話し合いを行い、誇りやプライバシーを損ねない声かけで支援している。管理者はその都度気づいた時は注意している。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立、入浴、外出など一人ひとりの力に合わせて自分の思いを提案したり、選んだりする場面を積極的に作っている。意思表示が困難な方には表情を汲み取り希望や好みを取り入れている		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮し、その時々気持ちを尊重して個々のペースを守りながら個別性のある支援に心がけている。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみは本人の好みで整えているが、自分で出来ない方には不十分な所を手伝い本人の気持ちに沿った支援をしている。理美容は訪問サービスや個人の希望に応じて支援している。		
15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を生かしながら食材の下ごしらえ、盛り付け、片付けを一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事する雰囲気作りも大切にしている。	好みや希望を聞きながら、配膳・下膳、後片付け等を職員と利用者が一緒に行っている。また、一緒に食事をしながら、食事が楽しみになるように支援している。食事の形態も、トロミ食や一口サイズにカットする等工夫している。ソーメン流しや弁当を持って出かけたり、誕生会の祝いの赤飯やちらし寿しなどを作ったり、手づくりのおやつも一緒に作り楽しんでいる。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏り、水分不足が起こらないように摂取量を個人ファイルに毎日記録し、職員間で情報を共有している。むせたり、飲み込みの悪い方には介助の方法や食事の形態の工夫をしている		
	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに歯磨きの声かけや見守り、介助を行っている。就寝前には入れ歯洗浄剤を用い、口腔ケアの重要性や義歯の管理の重要性を全職員が研修で理解している。		
16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意がなくおむつを使用している利用者には排泄パターンに応じてトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。おむつ交換の必要な利用者には排泄チェック表を用い、排泄の有無を確認している。	昼間にリハビリパンツを使用したり、排泄パターンに応じて声かけを行い、トイレ誘導している。トイレでの排泄ができるように、職員は心配りを行ない、自立に向けた支援を行っている。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者から排便の有無を聞いたり、トイレ排泄時に職員が確認を行い、スタッフ間で申し送っている。食材の工夫をしたり、適度な運動をして自然排便につながるよう取り組んでいる。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	ある程度の入浴日は決めていますが、利用者のその日の体調を確認し、個々に応じた入浴支援を行っている。また、入浴剤を取り入れ、香りや色で入浴が楽しめるように工夫している。	順番を決めて入浴をしている。体調や都合に合わせて入浴の支援を行っている。「体重測定をしますよ」「入浴ですよ」とかの、声かけを工夫して入浴をしている。随時、シャワー浴も使用している。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。一人ひとりの体調や希望に応じてゆっくり休息ができるよう支援している。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用、用法などは個人ファイルを通して理解し、服用時は本人に手渡したり、口に入れる等介助し服用を確認している。症状変化については詳細な記録を取って残している。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で鉢植え、花の手入れ、掃除、食器洗い、洗濯物たたみ等、得意分野で力を発揮してもらえるよう支援している。行事参加や外出にて気分転換が出来るよう努めている。		
18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	神社参拝への散歩に行ったり、本人の希望に応じて買い物に出かけたりしている。歩行困難な方は車いすを使用して戸外へ出かける支援を行っている。	天気の良い日は、甲突川沿いの散歩や買い物に出かけている。希望を聞いて、そうめん流しや花見・動物公園・都市農業センター等に出かけている。日常的に外出の支援を行っている。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族よりお金を預かり、事業所で管理している。利用者一人ひとりの力や希望に応じて少額を手元に持ってもらい、神社参拝や買い物の際に必要なお金が使えて安心感に配慮している。</p>		
	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族、友人、知人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の草花を玄関、フロアに飾ったり、廊下、食堂などに飾って季節感を取り入れ、心が安らぐ居心地の良い家庭的な雰囲気が出せる工夫をしている。</p>	<p>玄関に利用者の貼り絵の作品が飾られ、エレベーターの中に湿気や臭いを防止するため炭が置かれている。廊下には、季節の花が活けてあり、リビングの窓からは桜島が見える。豊コーナーにテレビが置かれ、利用者がゆっくりと居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や畳部屋に椅子やソファを置き、一人で過ごしたり利用者同士で良い関係が築ける環境作りに心がけている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、ご家族と相談し、今まで使っていた馴染みの家具や好きな物を持ち込んで頂き個別に応じた工夫を行い、本人が居心地良く生活できるようにしている。</p>	<p>テレビ・観葉植物・仏壇・位牌・布団・鏡台・クッション・椅子・テーブル等、利用者の馴染みの家具や好みの物が置かれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人にとって（何がわからないのか）職員で話し合い、個人の状況に応じた環境づくりに努めている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない